

株式会社ベネッセホールディングス
第 56 期定時株主総会 質疑応答要旨

2010 年 6 月 26 日

於：本社 岡山県岡山市北区南方三丁目7番 17 号

当社株主総会における株主の皆様からの主なご質問と、当社からの回答の要旨です。

1. 事業内容について

Q：海外教育事業の将来性とリスクを聞きたい。また、台湾で会員数が減少している理由は？

A：中国での事業に注力しており、現在の会員数は 22 万人です。5年後には 100 万人、2018 年には 150 万人に拡大することを目指して展開しています。これまで、幼児を対象に事業を行っていましたが、今年度は小学生にまで対象を広げます。今後も、出産・育児、英語、通信販売などへ事業が広がる可能性もあります。また、人件費の上昇や著作権の侵害などへの対策も慎重に進めてまいります。台湾事業で会員数が伸び悩んでいるのは少子化が最大の原因です。ただし、台湾でのシェアはトップを維持しており、今後、一層の事業の効率化などを行い、さらなる成長を目指します。また、他の国への事業展開についても、研究をスタートしています。

2. 業績について

Q：ベルリッツインターナショナルの減益幅が大きいのが、為替対応も含めて対策はないのか？

A：ベルリッツインターナショナルは、米ドルで決算を行っており、これをベネッセホールディングスの決算に連結する際に為替換算とのれん償却費の影響を受けます。去年は為替だけでなく、リーマンショックや新型インフルエンザなどの影響もありましたが、米ドルでのベルリッツインターナショナルの業績は、売上は対前年比で 11%の減少に踏みとどまり、利益は 58%減少していますが、4%を超える営業利益率を維持しています。今後は、グローバルに活躍できる人材育成や、ELSのような留学生事業を拡大することで、成長を目指します。

3. その他企業活動全般について

Q：昨年 10 月の持株会社移行後、経営はどのように変わったか？

A：持株会社化により、これまでのベネッセコーポレーション単体的な思考から、グループ全体の成長を図る体制に移行しました。グループ全体を5つの事業領域に分け、各々その責任者を定めています。社外取締役を含めた取締役会は、成長戦略に関するディスカッションにこれまで以上に時間を費やすことで、ボンセジュールの完全子会社化やアビバの株式売却など、スピードを持った意思決定ができました。また、将来の成長を推進するようなグループ幹部を育成するための研修制度にも積極的に取り組んでいます。総じて順調なスタートが切れたと認識しております。

Q: 役員報酬額が1億円を超えていたら開示して欲しい。

A: 代表取締役社長である福島に対する 2009 年度の連結報酬等の総額が、約1億8百万円となっています。(総額には、基本報酬の他に、ストックオプション、賞与、退職慰労金が含まれています。)

以 上

本資料は投資家の皆様への情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。また、内容については投資家の皆様の関心が高い事項を要旨として掲載するとともに、個人のプライバシーに関わる事項の削除、掲載順の変更等を行っており、株主総会議事録とは異なります。記載事項は、総会開催時点での当社の見解であり、リスクや不確実性を含んでいるため、今後、予告なしに変更されることがあります。

なお、本資料に記載されているあらゆる事項に関する欠落・誤謬等につきましては、その責を負いかねますのでご了承ください。従いまして、本資料に依拠して投資判断を下されることはお控えいただきますようお願いいたします。